

## 今週の主な News

1. 2023 年度 JSURP 通常総会の結果報告
2. 積丹支部の設立
3. 23 年度の全体計画(総合方針)のあらまし
4. ワークショップ「現代のプランとプランナー」
5. 地域デザイン研究会第 2 回地域探訪のお知らせ

### ■2023 年度 JSURP 通常総会の結果報告

JSURP 通常総会が 6 月 24 日(土)シティラボ東京にて開催されました。

山本会長の挨拶で始まり、議決権者(正会員数 166 名)に対し過半数(99 名(代理人委任 28 名、書面表決 71 名))の出席が確認され、総会は成立し、第一号議案(2022 年度事業報告及び収支決算)、第二号議案(2023 年度事業計画及び活動予算)の2つの議案が審議され、満場一致で可決、承認されました。(なお、当日は 23 名の正会員の方がシティラボ東京の会場で総会に出席されました。)(文責:千葉葉子)

### ■積丹支部の設立

今年 6 月に積丹支部が誕生いたしました。

5 月末に新支部設立に向けた企画提案書が届き、理事会の一任を受けた四役会では、6 月 19 日に支部長候補の湊氏(正会員)に参加いただき、プレゼンと質疑応答を行いました。四役会では、地元の人たちの巻き込み、北海道支部との連携などの要望を伝え、支部設立を承認いたしました。

積丹支部は、北海道積丹半島に位置する積丹町が主な活動エリアです。今後、行政、地元の事業者、地域外の企業などと連携し、地域を支える交流のプラットフォームを目指し、活動を進めていきます。

JSURP の支部については、地域における活動を積極的に推進していくことをテーマとして支部規定を見直し、作年広島支部が設立され、今年また新たに積丹支部の設立の運びとなりました。これにより現在支部は北海道支部、積丹支部、神奈川支部、静岡支部、広島支部、福岡支部の6支部体制となります。さらに現在名古屋東海地域において新たな支部設立の動きが加速しています。

今後、地域地域でのまちづくり活動の基点・拠点として、同じ地域の会員の連携による新たな支部開設に向けた動きが顕在化し加速していくことが期待されています。

### ■協会会費の早期納入のお願い

会員の皆様には 2023 年度の協会会費納入に関するご依頼書(請求書)を送付しました。納付は(できるだけ速やかに)7月 31日(月)までに納付いただくようお願いいたします。

### ■23 年度の全体計画(総合方針)のあらまし

6 月 24 日に開催された通常総会の席で可決承認された第 2 号議案(2023 年度事業計画及び活動予算)における 23 年度の全体計画(総合方針)をご紹介します。

今年度は、設立 30 周年を迎えることを踏まえ、これからの JSURP のあり方や、まちづくりを支えるプランナーのあり方を考えながら、まちづくりの担い手との連携を強め、新たな事業や研究、パートナーを発掘し、新しい仲間を増やし、視野を広げつつ未来を展望する 1 年としていく。その5つの柱とあらまは、以下のとおり。

#### 2023年度のJSURPの全体計画(総合方針)の5つの柱

1. ミッションを強く意識してビジョンを広く共有し、連携の輪を広げる
2. 全まち等での発表交流を通して次世代のまちづくりの担い手を育成する
3. 日常的な活動を全国に広げ、新たな研究対象を生み出す
4. 7つの部会の参加メンバーを新たに募り、各部会活動を活性化
5. 財政再建に向け、寄附拡大と支出削減に努める

★第一に、「まちづくりの力で社会課題を解決する」というミッションを強く意識し、ビジョンを広く共有し、連携の輪を広げていく。そのため、「これからのプランニングとプランナー像」をテーマとした連続的な企画を実施し、新たに Podcast を開設してプランナーの知見や生の声を届けていく。また、各種 SNS を効果的に活用し、多世代・多地域に訴える広報活動を展開していく。

★第二に、「これからのまちづくりの担い手」をテーマに開催する全国まちづくり会議を日頃の研究会・部会活動の発表・交流の場として位置付け、若手や学生による企画・セッションの開催を通じて学びの場を提供し、まちづくりの専門家としてのビジョン形成を支援していく。

★第三に、J's Café や地域まちづくり活動など日常的な活動を全国に広げ、新しい支部設立を積極的に支援する。また、会員の内外を問わず、新たな研究活動を歓迎し、多様なスタイル・テーマの研究活動を創出する。

★第四に、昨年度再編した7つの部会は、地方からも個人賛助会員を含めメンバーを新たに募り、各部会活動を本格化する。また、アーバニストとして総称されるまちづくりの担い手や隣接領域の専門家も会員として入会を勧め、各部会活動を活性化。

★第五に、財政構造の健全化を図るため、各事業単位における事業計画を精査して支出の削減を進めるとともに、団体賛助会員の入会を勧め、認定 NPO の強みを活かして税制上の優遇措置のある寄附を募り、JANPIA をはじめ公的機関の受託業務の獲得に努める。(文責:山本俊哉)

## ■総会后ワークショップ「現代のプランとプランナー」

今年度の総会后シンポジウムは、フォーラム部会で年間のテーマとしている「これからのプランニングとプランナー像」の検討の一環として、参加者のワークショップによる検討を行った。

これまで、2月の会員意見募集、4月6日に開催したベテラン、中堅のプレスト、さらに総会時に発行されたプランナーズ99号特集「これからのプランニングとプランナー像」の概要を紹介した上で、さらに議論を深めたものである。

参加者は約35人、会員内外含め、超ベテランプランナーから大学1年生までの参加を得て実施した。これまでの検討の結果として、このテーマを考える上での社会的背景や都市の課題、共通像としてのプランナーのあり方(例えば、広い視野・俯瞰性、人を繋ぐ力、長期的な視野など)は見えつつあったため、今回のディスカッションでは、特にプランナー像としての「多様性」「総合性」をより深掘りしていくことを意図して開催した。



ディスカッション7つのテーブルに分かれて行い、ファシリテーターに、A:内山征、B:長谷川隆三、C:小林真幸、D:原拓也、E:安藤裕之、F:鈴木俊治、G:中川智之の各氏に依頼した。ディスカッションの成果を最後に共有するのだが、テーブルにより検討の結果は様々であり、まだまだ多くの議論の余地があることが確認できた。

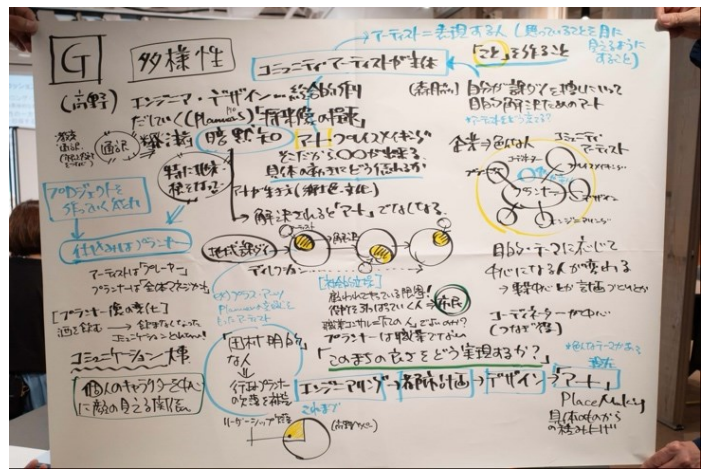
まず「総合性」につながるプランナーの能力としては、様々な立場・チームを「束ねる」力が必要で、束ねるためには部分ではなく、全体を見渡す「視野」が重要との指摘があった(A班)。また、参加主体を味方に付ける能力、各者の言いたいことを「翻訳」できる能力も必要である。その上で、プランニングのプロセス全体を「設計」していく(C班)。

また、現代のように先の見えにくい時代であっても明確な将来の「ビジョン」が必要であるが、それ自体を提案する役割をプランナーが担っていること、その前提として、何を大事にするのか、その価値を見いだせることが重要である(D班)。一方、ビジョンは一定の「余白」を残しておくことも重要で、その「スキマ」が様々なアクションを生む土壌になり得る(B班)。一方行政プランナーも同様の役割を担うが、異動の問題、専門性の問題から十分に未来を描ききれず、そこに住んでい

ないプランナーも躊躇してしまう。そのような状況では互いの協働により創造せざるを得ない(E班)。さらにビジョンを「絵」にして分かりやすく説明する従来からのプランナーの基本的な機能も重要であり、現状の把握をデータのみでなく5感からも把握できる技術像も提示された(F班)。

また、プラン後の「アクション」に繋げる役割も重要であり、その背景にはまちづくりに求められる役割が、エンジニア⇒都市計画⇒デザイン⇒アートに変化していった経緯があるという。地域の価値を可視化することができるアーティストは今後のまちづくりのプレイヤーとして非常に重要であり、彼らの活躍の場、余白をつくり出すことが今後のまちづくりでは重要である(G班)。

その他様々な意見があったが、秋の全国まちづくり会議でのセッションにつながる議論ができたように思う。



(文責:高鍋 剛)

## ■地域デザイン研究会第2回地域探訪のお知らせ

個性あるまちづくりを展開している地域の方にご案内いただきながら、その地域のまちづくりについて、ともに議論する「地域探訪」を行います。第2回は下記要領で実施しますので、ご興味のある方は是非ご参加下さい。

### 【開催概要】

日時:2023年8月6日(日)13:00~17:00

(終了後、任意で懇親会を予定)

場所:川越市

参加費:1,000円(懇親会費別)

定員:10名程度

申込方法:<https://forms.gle/6EcXFTv6K97S34BC7>

受付締切日:2023年7月15日(土)23:59迄

案内人:川越蔵の会の方々

(<https://www.kuranokai.org/home.html>)

(紹介者:西川亮(立教大学))

## ■7月の主な予定

7月26日(土) 理事会